

静岡 沖縄を語る会

第 61 号

2024年3月18日
清水区西久保300の12
富田英司
ゆうちょ口座
静岡・沖縄を語る会
00890-1-152770

うるま市にミサイル強硬配備！ 「今止めないと手遅れに！」 住民が阻止行動(3.10)



☆目 次☆

辺野古代執行訴訟判決糾弾	2
うるま市民の会現地報告	4
全港湾沖縄全面ストへ	6
オスプレイ飛行再開に怒り	7
馬毛島住民裁判始まる	8
静岡今沢でも軍事訓練	9
米軍廃棄物パネル展	10
「沖縄狂想曲」映画評	11
地方分権と辺野古、袴田裁判	12
映画「戦雲」上映始まる	15
情報館便り	16

「戦争につながるミサイル配備いらない」
うるま市民の怒りの声 全国で怒りの声を！
(4、5 頁に関連記事)

—お知らせ—

静岡・沖縄を語る会総会

期 日 4月27日(土) 午後2時より

会 場 静岡労政会館第一研修室

※ぜひおでかけください

『代執行』による埋め立て強行は 大浦湾の自然と地方自治の死

—— 辺野古 代執行」が破壊したもの ——

池 田 一 静岡・沖縄を語る会 顧問)

「マヨネーズ状」の軟弱地盤といわれる大浦湾の埋め立てがついに始まった。県の埋め立て不承認の判断をあらゆる手段で押さえつけ、切り崩し、新基地建設を強行する日本政府。沖縄の民意は、県の自治は、そして何よりもかけがえのない大浦湾の自然はどうなるのか！

—12月20日県敗訴 そして 代執行」による工事強行—

年明けの1月10日、辺野古大浦湾側に米軍基地建設の土砂投入が、青いサンゴの海を白濁させながら開始された。昨12月20日 福岡高裁那覇支部が、国が県に代わって設計変更等を承認する「代執行」を命じた判決を受け、**国が国に**工事着工を承認し、開始させたのだ。前号(23.12.18発行60号)会報でも述べたように、この裁判も茶番に他ならない。思考停止、機能不全に陥った裁判所が、国に追随しているだけのものだ。司法までもが、国に付度して「沖縄差別」を作り出していると断ぜざるを得ない。12月20日に高裁判決、そして

12月27日の県の最高裁への上告、更には高裁における『国と沖縄県との対話を通じた抜本的解決』への付言などまったく意に介さず、なんら話し合いもせず、信じられない迅速さでの土砂投入が行われたのだ。2018年12月14日 辺野古沖に土砂投入されて満5年。投入された土砂の量は318万m³、埋め立て予定総量の15%と聞く。政府は埋め立て工期を9年3ヶ月とするが、最深で90m、軟弱地盤の広がる埋め立ては最新の技術をもってしても困難を極めるであろう。

—危ぶまれる地方自治—

沖縄県民はさまざまな局面で、「辺野古NO!」と示してきた。2019年には辺野古埋め立ての賛否を唯一の争点としての県民投票で、72%の反対、それらを受けて県知事は対話による解決を図ろうと10数回の国への呼びかけに対して、国は一度たりとて真剣に向き合ってこなかった。国と地方の関係は対等、協力ではなかったのか。就任6ヶ月にして、今年の2月16日初めて沖縄本島を訪問した木原防衛相と知事の話し合いも、真摯な協議は

全くなく、一方的な押し付けに終始したと聞く。与那国、石垣、宮古、そして沖縄島うるま市における自衛隊の一方的な増強の中での初めての協議というのに。

安保三文書以後、台湾有事を煽り立て、沖縄の軍事要塞化を推し進める政府、防衛大臣がこの体たらく。そこに住む、生きる人々のことなど眼中にないのかも——。

—自然の宝庫・大浦湾を殺すな！—

“ジュゴンが回遊する蒼いサンゴの海”と観光パンフレットにうたうも、沖縄島は自然が本当に少なくなってきた。そんな中、沖縄島の最後・最高の生物多様性、自然の宝庫の海が今回の工事強行により消滅してしまう。

翁長知事の警告が今、胸に響きます。2015年、埋め立て承認を取り消した知事は「おそらく工事はどこかで中断するでしょう。日米政府にとって基地建設が出来なかった事態は完全な“敗北”でしょう。ではその時、私たちは“勝った”のでしょうか。私たちが守ろうとした大浦湾の美しい海は汚れ、ジュゴンもサンゴもいなくなれば、それ

を“勝利”とは決して言えないと思います。……この工事は誰にとっても“勝ち”はないのです。」（「戦う民意」角川出版）

一度始めたら、引き返すこと、立ち止まり検証することの出来ない国柄、政治の無責任構造、辺野古新基地建設強行に関わった政治家、役人、裁判官たちは誰も責任をとることがないでしょう。もう一度言います。“大浦湾を壊してしまったら、勝利はないのです。”

2月29日、最高裁は県の意見も聞かず、まったく審議もしない門前払いで県を敗訴させた。



代執行の取消しを求めて訴訟を起こした住民たち（沖縄平和市民連絡会北上田毅氏写真）

大浦湾に石材を投入する作業船。洗浄していない石材から白塵が舞い上がっている
（沖縄平和市民連絡会北上田毅氏写真）



みんなで止めよう！！

うるま市勝連分屯地へのミサイル搬入を！

2021年8月、防衛省は沖縄県うるま市の陸自勝連分屯地に地対艦ミサイル及び地対艦ミサイル連帯本部を2023年度中に配備すると発表。3年後の現在、勝連分屯地の整備工事が急ピッチで進行、政府が煽る台湾有事に向けた琉球弧の島々のミサイル前線基地化が完結されようとしている。これに対し、うるま市民は島々に暮らすすべての住民の命が脅かされるとしてミサイル配備に反対し、「ミサイル配備から命を守るうるま市民の会」を立ち上げ抗議を続けている。今回初めて、守る会の宮城事務局長から阻止行動直前の状況と、県議会も全会一致で白紙撤回を求めた自衛隊訓練場計画についても伝えていただきました。

勝連分屯地への地対艦ミサイル搬入阻止へ！

ミサイル配備から命を守るうるま市民の会 宮城英和事務局長

防衛省は3月9日か10日に地対艦ミサイルの発射台や関連装置を陸自勝連分屯地に搬入すると表明しています。具体的には福岡県の港から船舶で中城湾港に運ばれてそこから公道を使って陸自勝連分屯地へ搬入するとのこと。

私たち「守る会」は搬入日が3月9日になるだろうと中城湾港での阻止行動を決め準備を進めました。3月4日には記者会見を開き、ミサイル配備反対運動の集結として搬入阻止の決意を訴えました。

会見では、3月1日（金）にうるま市長にミサイル配備反対の署名を市民40人近くで押しかけて手交したことも報告し、市民の要請を無視し続けた市長の怠慢を痛切に批判しました。

私たちが3月4日に記者会見し、9日の阻止行動実施を感知してか、防衛省は10日に搬入すると報道。私たちもすぐに大急ぎで日程変更を各団体に連絡。それに対して防衛省はまたまた日程を変更してくる可能性もありますが、中城湾港に最大動員して搬入を阻止するつもりです。



レゾリュート・ドラゴン日米合同訓練の阻止行動 (2023年)

うるま市では昨年(2023年)12月20日、防衛省がうるま市石川旭区のゴルフ場跡地 20ha を取得し自衛隊基地の訓練場を造ると報じて以来、連日、地元2紙はこの問題を掲載しています。地

元旭区の自治会の反対の声は石川地区、うるま市全体に広がり、昨日は県議会でも白紙撤回の意見書を全会一致で可決し、今や県全体を揺るがす反対運動になっています。

自衛隊訓練場設置計画の断念を求める会も発足!

ゴルフ場跡のすぐ隣には県立石川青少年の家と石川市民の森公園があります。自然に恵まれたこの地域には年間4万人の人たちが県内外から訪れるそうです。旭区と東山区は閑静な住宅となっており、訓練場を造るという防衛省の住民無視の計画には市内外のほとんどの人が怒りを隠せません。1月14日には「自衛隊訓練場設置計画の断念を求める会」の準備会が発足し、3月の20日には大規模な集会が予定されています。

これまで「防衛に関する案件は国の専管事項であり、ものをいう立場にない」と固執していたう

るま市長も世論に押され、訓練場断念の白紙撤回を求めています。その豹変ぶりは2期目を目指す来年の市長選挙をにらんでの保身だと多くの市民はみっていますが、世論形成がいかに大切かを石川の自衛隊訓練場反対の運動は語っています。

陸自勝連分屯地に配備される地对艦弾道弾に関してはいまだに「国の専管事項」だと市長としての態度を表明していませんが、これからも追及の手を緩めないで粘り強く闘っていきたいと思っています。

勝連分屯地への地对艦ミサイル搬入を許すな!

3.10中城湾港へ最大結集を!

●3月10日(日) 午前8時 ●中城湾港 西埠頭(第4ゲート)

(近隣市町村の皆さんは午前7時集合)

なお、搬入が前倒しになったり、延びたりする可能性があります。その際はこちらから各団体に連絡します。

ミサイル配備から命を守るうるま市民の会 ☎080-1102-2309(宮城)

いよいよ防衛省・自衛隊が3月10日に地对艦ミサイル車両、弾薬、関連装備などを福岡から中城湾港へ搬入する計画を立てていることが県内2紙で報じられました。

私たちは、2021年8月20日に防衛省がうるま市勝連分屯地に地对艦ミサイル配備及び第7地对艦ミサイル連隊本部を創設すると発表して以来、今日まで反対運動に全力で取り組んできました。

なかでも、日常的な監視・調査活動によって工事の違法性を次々と

暴き関係機関に通報した結果、今年2月29日完成予定の工事が大幅に遅れ、新庁舎、車両整備場周辺の土木工事がまだ続けられています。

にもかかわらず、防衛省・自衛隊はアリバイ的に地对艦ミサイル車両、弾薬、関連装備の搬入を強行しようとしています。ここは正念場です。私たちは強い決意をもって上記の行動を実施します。一人でも多くの皆さんが結集すれば、防衛省・自衛隊の思惑を粉砕することができます。万難を排して参加されることを心から呼びかけます。



新庁舎周辺の土木工事がまだ続けられている(2月28日)



ゲートで新しい看板の取付をする作業員(2月28日)



配備予定の12式地对艦誘導弾車両
移動しながら発射台を積み込む射撃装置車
対艦レーダー車、無線中継装置車、指揮統制装置車、射撃統制装置車、発射装置車、運搬装填車等が最大30両配備される

3月10日の地对艦ミサイル搬入阻止行動への呼びかけ文

米軍艦の民間石垣港への寄港は論外

全港湾労組はストライキ

3月11日、沖縄・民間の石垣港に米海軍のミサイル駆逐艦「ラファエル・ペラルタ」が寄港。あまりの巨体に接岸できず、駆逐艦を石垣港の沖合に停泊させ、乗組員はボートを使い通常クルーズ船が入港するエリアから上陸しました。

艦長は「今回の石垣への寄港には、台湾有事を見据えた意図は一切ない。あくまでもラファエルペラルタの西アジアでの巡回における寄港先のひとつであり、乗組員の保養などを目的としている」……って、「そうですか、それならどうぞ。」になるわけないでしょ。



全港湾沖縄地方本部はアメリカ軍の港の利用が港湾労働者の安全を脅かすとして11日、午後1時から石垣港でストライキに入ったと発表しました。

対象となる組合員は40人でアメリカ海軍の船が出港するまでストを続けるとしていて解除については港を管理する石垣市と協議する事を検討しています。

山口順市委員長は去年9月の掃海艦に続きミサイル駆逐艦の寄港に強い危機感を示しました。

▽全港湾沖縄地方本部 山口順市執行委員長：

「イージス艦が入って来るということですのでいよいよ我々の職場が軍事利用されるということを懸念しています」

全港湾は当初那覇港でのストも通告していましたが県民生活に及ぼす影響が大きいことや那覇港管理組合との間で「労働者の安全確保に関する認識が共有できた為ストの実施を見送った」と説明しました。

また玉城知事は

「どのような形であっても、緊急事態以外は使用を自粛することを守って頂きたい」と表明しています。



なめすぎてるでしょ

オスプレイ飛行再開



2016年12月名護沖に「着水」し大破したオスプレイ。それでもまだ形はわかりますが、昨年11月屋久島沖の「不時着水」では文字通り跡形もなく粉々でした。

死亡事故でも沖縄では訓練継続

米軍は、オスプレイの飛行を3か月ぶりに再開と発表した。再開に伴う説明を受けた日本政府は「詳しくは言えないが…同意」とのこと。これを聞いたら「アホちゃうか?」と思うのではないか。緊急脱出装置の無いオスプレイに乗っていた8人は全員死亡したのに、沖縄では事故後も1週間飛行が続けられ、米軍が全世界での「一斉飛行中止」になって、やっと飛行停止になったのは記憶に新しい。

米国外で導入は日本だけ

当初オスプレイは世界で400機ほどの導入が計画されたとされます。カナダ、韓国、オーストラリアなど、米国と友好的な軍隊で大量に売れるとの皮算用がされた。ところがあまりに事故が多かったため、イスラエルさえ購入していない。

輸送機という点では熊本地震で物資輸送に華々しくオスプレイが使用されたが、離・着陸で地面に高温の空気が噴射されるなど、問題が多く、今回の能登地震では全く姿を見せていない。

製造中止と運用継続

結局来年で製造が中止となるが、運用は2050年迄続くという。想像できることは、全く飛ばさないにせよ、毎年メンテナンス料を払わされる続けるということだろう。バイデンに売りつけられた岸田が、開発費分も上乗せされたオスプレイを爆買いし、私たちの増税となる…もちろんこんなことは認められない。

台湾有事と抑止力にダメされない

この増税を正当化するために進められているのが「台湾有事」キャンペーン。抑止力という軍拡。しかしそれは沖縄の島々を標的にすることに他ならない。さらにオスプレイの事故で日常的な危機にさらしても本土は知らん顔か。(望月)

馬毛島基地反対住民訴訟 が始まりました！

強行される馬毛島の自衛隊基地建設について、前西之表市議の和田香穂里さんが会報 5 号・6 号で報じてくれました。昨年 1 月 19 日、いよいよ住民たちによって訴訟が起こされ 3 月 12 日には第 1 回公判が行われました（後日詳述）。闘う原告たちに応援のメッセージを送ろう！



裁判傍聴・応援メッセージのお願い

3月12日（火）

～14時20分 整理券配布、14時30分～ 入廷行動@鹿児島地方裁判所前

15時～ 第1回口頭弁論期日@鹿児島地方裁判所 202法廷

弁護士が訴状の概要を説明し、原告2名（団長・漁師）が意見陳述。

16時～ 報告集会@鹿児島市中央公民館 地下1階

Zoom ミーティング ID: 840 4853 3706、パスコード: 137022 →

18時～ 交流会 一会場を手配しますので、お早めにご連絡ください。



種子島沖の馬毛島基地建設着工から1年が過ぎました。西之表市民の生活は一変しました。これまでに8800億円超の国家予算が計上され、来年には米軍 FCLP が計画されています。2022年9月、馬毛島基地計画に反対を掲げて2期当選し、馬毛島に残る市有地は売らないと明言していた西之表市長が突然、市有地売却と市道廃止を提案し、賛否同数の市議会で反対派が議決権のない議長であるため、1票差で可決されました。市民ら約400名が住民監査請求で差止めを求めるも不受理とされている間に、市長は市有地売却と市道廃止処分を行いました。2023年11月、4度目の住民監査請求も具体的理由を示さずに棄却されたため、同年12月、原告団30名が住民訴訟を起こしました。その第1回口頭弁論期日がこのたび行われます。裁量権の逸脱濫用、不適正な価格、随意契約、道路法違反などを理由として、市長と国への損害賠償請求の義務付けと、市道廃止処分の無効確認または取消しを求めています。「どなたかの馬毛島」には、土地はもちろんとし、「基地のない、静かで平和な馬毛島」という意味も込められています。今後、基地建設の差止訴訟も検討しています。ぜひ裁判傍聴支援や応援メッセージをお願いいたします。支援する会の結成も準備中です。

【連絡先】原告団長 和田 香穂里 090-8017-6051 / kaori.wada528@gmail.com
弁護団事務局長 塚本 和也 042-645-5151 / tsukamoto@8oji-godo.com

軍事訓練は沖縄だけではない、静岡でも拡大！

沼津・今沢訓練場でも LCAC 訓練

山崎ひろみ(静岡・沖縄を語る会共同代表)

—静岡県内の軍事施設の共同使用が増加しています！—

2月18日、静岡県沼津市の米軍今沢海浜訓練場で、海上自衛隊のLCAC（上陸用舟艇）2隻の訓練が行われていた。平和委員会の情報では、当日はLCAC2隻の通常訓練だけでなく、沖に停泊している輸送艦「しもきた」まで、高校生と引率の教諭、保護者ら約20人を乗せていき、そこでランチをするという特別メニューが用意されているという。こうしたイベントで、昼時などに着岸しているLCACに一般人や入隊希

望の高校生たちを乗船させることはあったが、高校生や引率の教諭、保護者らをLCACに乗船させ、沖合いの輸送艦まで連れて行き、さらにそこでランチをするのはこれまではなかったという。

2隻は上陸訓練などを行った後、昼少し前に高校生たちを分乗させて「しもきた」へ向かってゆっくりと出発していった。自衛隊員減少の折、増員にむけたデモンストレーションか。



沼津市今沢海岸の米軍海浜訓練場に着岸した海上自衛隊のLCAC（上陸用舟艇）



高校生たちを乗船させて、沖合いに停泊する輸送艦「しもきた」に向かうLCAC

—高校生の自衛隊入隊は「職業選択」？軍事訓練も魅力？

今沢基地の使用は、米軍と自衛隊の共同訓練など年々増加。この日も午後8時まで通常訓練があり、12日後の3月1日には米軍ヘリが離着陸訓練を予定。身近な散歩道の近くで、実は離島奪還や緊急時輸送等の訓練が、災害対応というイメージを纏いながら行われている。

高校生にとって自衛隊は、災害時に救助してくれる頼もしい存在と写っているのだろうか？

一方で、奈良県奈良市では18歳の高校生が「個人情報自衛隊に渡さない」ことを求めた一人が裁判を起こしている。政府は軍拡前のめり、自衛隊はもはや安心して各種資格が取れる職業ではなく、沖縄の先島でミサイルと対峙する命がけの仕事になった。未来ある若者たちの行く手に戦争があってはならない。真剣に向き合う必要がある。軍事訓練は沖縄だけではない。



やりました、米軍廃棄物パネル展

中村之菊（みどり）さん来静 やんばるの現状を語る

沖縄島北部のやんばるの森にある米軍北部訓練場は2016年にその半分が返還された。やんばるは緑豊かな多様な生物の住む世界自然遺産だが、その実態に驚く。長年米軍が軍事訓練に使用し、捨てていった廃棄物、有毒化学物質などが多量に残されている。「日米地位協定」は「米軍が基地・訓練場等を返還する際、原状回復の義務はない」と定める。フェンスのない北部訓練場、その危険な実態を中村さんが糾弾した。



展示パネルより

写真上 森の中の草木の生えないエリア

写真右上 森に残る不発弾など米軍廃棄物

中村さんの話を聞く来館者
(沖縄情報館で)



米軍廃棄物パネル展からみえたもの

2月22日から3日間、静岡市の沖縄情報館で、「米軍廃棄物パネル展」を開催した。

米軍廃棄物とは普段語られることのないテーマで、宮城秋乃、中村之菊両氏の勇敢な調査行動とプロデュースにより日の目を見たもの。短い展示期間ながら、私たちの情報館を訪問してくださった中村さんから興味深いお話を聴いた。関係者の話として、米軍では訓練の後使いきれなかった弾薬や重たいものを放置して去ることは珍しくない。それを裏付けるように、葉きょうなどに混じり新品らしい弾薬もみつかるという。パネル展で紹介されたのは2016年に返還されたやんばるの北部訓練場で、日本政府に押し付けられた原状回復はまだほんのわずかという。

中村さんは、毎年情報公開請求でその経過を追っているが、回収品目と数が黒塗りされることな（開示されているそう）。その妙に几帳面な回収作業も何のためか、日米地位協定の1文字とて変えることのできない現状がある。とにかく知らせること、人とのつながり、話し合いが大事、と言う中村さんは今年も全国を忙しく駆け回るだろう。

大井美智子 静岡 沖縄を語る会)

ドキュメンタリー映画「沖縄狂想曲」を鑑賞して

「沖縄狂想曲」は2月3日より15日迄、藤枝シネプレーゴで13日間、上映された。監督は太田隆文氏。近年はドキュメンタリー作品に挑んでいる。過去にはれいわ新選組の山本太郎氏が出演した「朝日のあたる家」、「ドキュメンタリー沖縄戦」、「乙女たちの沖縄戦、白梅学徒の記録」等の作品がある。



なぜか大手マスコミは取り上げない

大手のマスコミでは「宣伝に取り上げてくれない」と監督は嘆いているが、何故取り上げないのだろうか？これは沖縄の真実で私たちは知る権利がある。1955年の由美子ちゃん事件、1959年の宮森小学校の米軍戦闘機の墜落、1970年のコザ蜂起、2004年の沖縄国際大学のヘリ墜落、2016年の名護市集落近くのオスプレイの不時着？（墜落）等の問題を、元大手新聞の論説委員、元沖縄県知事大田昌秀氏、前泊博盛沖縄国際大学院教授、佐喜眞美術館館長の佐喜眞道夫氏、「最低でも県外」と発言した元内閣総理大臣、鳩山由紀夫氏らが解説していく。



太田隆文監督



「黒人の車は焼くな」は差別の共有か

コザ蜂起の時には「黒人の車は焼くな」ということを聞いたという証言がある。黒人米兵も沖縄の人々も自分たちに向けられる差別を共有していたのかもしれない。それは現在のガザ攻撃にも繋がってはいないのか、米欧の植民地主義の帰結なのではないのかという思いが頭をよぎった。映画のラストで流れるナレーション「沖縄は東アジアのハブに。経済や文化の発信地になれば攻撃することはなくなるだろう。日本が経済的に復活できるかもしれない。」監督は言う。「私は沖縄の現実を知っている人にではなく、沖縄の今を知らない人に知ってもらいたくてこの映画を撮った。」と。

静岡での再上映を期待

映画が上映されてからSNSで毎日宣伝をしている。「正直、ヒットして嬉しいのですが、賛同の意見が多いのですよ、でもね、映画を批判する声が聞こえないとヒットしないものなのです。それが、目下、心配である。」と語っている。監督によれば静岡の上映は終わったがSNSで有名なせやろがいおじさんと5月頃にトークイベントの話があるという。期待して待ちたい。そして、静岡で一人でも多くの方に見て頂きたいと思い再上映をお願いしている。

(佐野 光代 静岡・沖縄を語る会)

地方分権と辺野古 森伸一（島田市）

『地方分権により国と自治体は対等の立場となり、それまでの機関委託事務制度は廃止されて、国の事務の多くは「法定受託事務」とされた。これにより通達行政は廃止され、国からの通知は命令ではなく助言であり、解釈の主体は自治体にある。それゆえ法定受託事務に議会も堂々と口出しできるようになった。ところが、通達を命令として受け取る自治体が多く、分権改革の趣旨とは逆の対応が心配である。その例として、国交省による統計改ざん（国交省が県に対して統計の原票の書き換えを指示したら、違法なのに従った、この対応はおかしい）がある』。以上は22年5月の全国地方議員サミットで片山善博さんが「いまこそ問われる！ 地方自治と議会の役割」で話した内容の一部で、地方自治体関係者への警鐘であった、

ところが今回の政府による辺野古“代執行”は「自治体は（国から）言われたことをやれば良い」といった高圧的で、沖縄の人々の民意を無視したものであり、司法も国の主張を補完するという地方自治・分権に逆行したひどいできごとである。

また政府は今通常国会に「大規模災害や感染症危機などの非常時であれば、個別法に規定がなくても国が自治体に指示できるようにする」地方自治法の改正案を提出するという話もきく。

市会議員になり11年、地方分権の趣旨については学んできたつもりである。しかしこの観点で議案の吟味しながら議案の審査をすることは少なかったと思う。一方自民系の議員からは「市長が自民党でないと国からの交付金が少なくなる」といった話をきくこともあり、この思い込みはひどいとも思った。今回の“代執行”の異常さひどさを訴え、2000年分権改革を再度学び、趣旨がしっかり活かされる自治体をめざして議会でも頑張りたいと思う。

玉城知事を応援して自治体議員の取り組み

まつや清（静岡市議）

12月25日、松谷清静岡市議は、沖縄県庁で平和立憲会議の全国の代表者として記者会見を行いました。10月30日、玉城知事が国の代執行訴訟で裁判所で意見陳述を行った日に、静岡県では森伸一島田市議も含めて県内自治体議員で同じ趣旨の記者会見を行いました。森市議が書かれているように「沖縄の辺野古基地建設代執行」は、日本の地方自治にかかわる重大問題です。これからも沖縄の人々と地方自治の現場で連帯をしていきたいものです。



2月29日「法的には確定」した国の横暴

10月30日の静岡県庁での記者会見の賛同者

呼びかけ：平和・立憲・人権をつなぐ全国自治体議員会議@静岡

共同代表 鈴木恵浜松市議 松谷清静岡市議

秋山博子焼津市議、八木勝藤枝市議 大石和央牧之原市議 森伸一島田市議 竹野昇袋井市議 三上元湖西市議 山下富美子沼津市議 江本浩二沼津市議 織部光男菊川市議 高橋隆子伊豆の国市議 長友くに下田市議 長沼滋雄静岡市議 杉山淳静岡県議

2023年12月24日

沖縄県政記者クラブ御中

報道機関各位様

【記者会見・声明公表のお知らせ】

辺野古基地建設代執行をめぐる高裁那覇支部判決について

平和・立憲・人権をつなぐ全国自治体議員会議

お世話になっております。

辺野古基地建設のための沖縄防衛局の埋立変更承認申請に関して国が提起した代執行訴訟について、去る12月20日、福岡高裁那覇支部は沖縄県に対し、12月25日までに承認することを命ずる判決を言い渡しました。

私たち「平和・立憲・人権をつなぐ全国自治体議員会議」（略称「平和・立憲会議」、旧「自治体議員立憲ネットワーク」；全国の超党派の自治体議員で構成するネットワーク）は、これまで一連の過程における政府の対応に強く抗議してきましたが、今回の判決に対してもこれを批判し、あらためて政府に代執行取下げを求める声明を公表しました。

現在、当会議の共同代表の松谷清・静岡市議が沖縄県に滞在していることから、明日25日、急きょ沖縄県庁内の記者クラブで会見を開くことになりました。 以下略

寄稿

袴田さん釈放から10年 再審開始1周年
3月25日から検察鑑定書で証人調べ

袴田巖さんを救援する清水・静岡市民の会 事務局長 山崎俊樹

追悼 赤堀政夫さん

2月22日、島田事件の赤堀政夫さんが亡くなりました。死刑台から生還して35年1か月の娑婆生活、94歳でした。島田事件は1954年の事件です。1977年3月、静岡地裁で第4次再審請求が棄却された後1983年5月、東京高裁が静岡地裁に差し戻し、87年再審開始決定、89年1月

袴田救援会の山崎事務局長より、重大局面となっている再審公判への支援要請がありましたので、今回寄稿してもらったこととなりました。

31日無罪判決、翌2月無罪が確定しました。

その後、他の冤罪事件の支援に駆け付け、袴田さんの再審請求の行方もいつも気にしていました。

袴田さんの再審無罪の声を届けられなかったことは残念です。

冤罪と静岡県警

でっちあげ捜査の体質

袴田さんの再審請求は1981年4月から始まります。そのため、当時の静岡地裁は、死刑囚の再審請求を同時に抱えていたことになります。

静岡県は警察のでっち上げ捜査を原因とする冤罪事件が極めて多い県だと思います。有名な事件だけでも幸浦、二俣、島田、丸正事件があります。丸正事件は再審請求が叶いませんでしたが、他の事件は上級審や再審でいずれも無罪になっています。

また、清水では小島事件や清水郵便局事件があり、いずれも最高裁が高裁に差し戻したり最高裁で無罪になったりしています。これらからもわかるように、静岡県警や清水警察署はでっち上げ捜査を行なう体質がその根底に綿々と続いていると言えるのです。

味噌漬けの血痕に「赤味」が残る？

実験もしない鑑定書

昨年10月27日から始まった再審公判はすでに9回を数えました。検察官が有罪主張にこだわった理由は検察官を支えている法医学者の存在です。昨年7月、検察官は7名の法医学者による鑑定書なるものを出してきました。その内容は一言で言えば「血痕が味噌に漬かっても赤みが残る可能性がある」というものです。鑑定書という体裁はとっていても、何を鑑定しているのかさっぱりわかりません。普



二〇〇七年清水の支援集会での赤堀さん。左は支援者の大野さん

通なら、血痕を味噌に漬けてみて、このような条件があれば衣類に付着した血液の赤みが維持できる。その化学的な機序を分析してみたら、血液の赤みが維持できる化学的な機序が明らかになったというのなら鑑定書としての体裁が整っていると言えるでしょう。残念ながらそのような実験もなければ化学的な機序の具体例を挙げて説明したものでもありません。

単にこの法医学者たちが、こんな感じだったら赤みが残る可能性があると言えるんじゃないかな……的な内容です。

法医学者たちは、3月25日、26日、27日に静岡地裁に検察側の証人として登場します。

血痕や血液は、酸性に触れることによって黒変することは普遍的事実であり、否定のしようがありません。味噌は原料を仕込んだ直後から数日間で酸性になることも否定できない事実です。にもかかわらず、「赤みが残る」と強弁し袴田さんを死刑台に送り込もうとする法医学者たちを私たちは絶対許してはならないと思います。

ぜひ、静岡地裁への結集し傍聴行動に参加をお願いしたいと思います。(傍聴券取得の抽選に必要な聴整理券は裁判当日の午前8時40分から9時10分まで配布されます)

袴田さんの心を癒す最強の友が、今袴田さんと共に暮らしています。詳しくは下記からご覧ください。

<https://npokitchengarden.hamazo.tv/c698029.html>

みんなで見に行こう!「戦雲(いくさふむ)」

昨夏、スピンオフ作品の上映をご覧になったみなさん、いよいよ待望の本篇、ドキュメンタリー映画「戦雲(いくさふむ)」が完成し、すでに3月16日(土)より東京で、3月23日(土)より沖縄で上映され、順次全国でも公開され大絶賛です。静岡では4月5日(金)から

静岡シネ・ギャラリーで上映開始です。4月13日には三上智恵監督の舞台挨拶も予定されています。静岡・沖縄を語る会では、会員のみなさんはじめ「沖縄を戦場にさせない思い」を共有するみなさんへ、さらに情報をお届けしていきます。ご注目ください。

問合せ 静岡シネ・ギャラリー(054-250-0283)



4月13日、静岡シネ・ギャラリーで
三上監督、上映後に舞台挨拶を予定

タイトルの「戦雲」とは

山里節子さんが「また戦雲が湧き出してくるよ、恐ろしくて眠れない」と歌った石垣島の抒情詩とぅばらーまの歌詞からとったもので、石垣島の発音で「いくさふむ」としたと三上さんが書いています。6年ぶりの最新作「戦雲」については「島々で踏ん張る人々と共に、戦を告げる不穏な雲を吹き飛ばす力が、湧き上がってくるような映画にしたい」と語っています。

世界では、ウクライナの戦火もガザの悲惨なジェノサイドも終わらない中で、東アジアの中の私たちは、せめて`新たな戦雲`が湧き起こるのを断じて許さない気概を持ちたいもの。ぜひこの映画を見て島々のみなさんにつながりましょう。(語る会編集局)



情報館だより (毎週木・金 12:30~17:30 開館)

3.23(土) きたかいマルシェ
 3.25(月)~3.27(水) 袴田さん再審
 4.5(金)~4.18(木)「戦雲」上映 静岡シネ・ギャラリー
 4.27(土) 沖縄を語る会総会 静岡労政会館 14:00~
 ※いつでも気軽にお立ち寄りください※

情報館の場所 新静岡駅の改札を出て5分。信号を渡ると目の前。



語る会主催イベント①



川口真由美ライブ
 とき 6月30日(日)
 ところ ミライエ
 ★詳細後日報告

語る会主催イベント②



とき 9月28日(土)
 ところ ミライエ
 ★詳細後日報告

イベント情報

「阿波根昌鴻 写真と抵抗、そして島の人々」
 と き: 2.23(金)~5.6(月)
 ところ: 原爆の図丸木美術館
 Tel, 0493-22-3266
 「沖縄のガンジー」と呼ばれた阿波根氏自身が、闘争の記録として収録した写真約350点を展示。
 主 催: 原爆の図丸木美術館
 共 催: わびあいの里

沖縄もどこも再び戦場にはさせない!!!

**Peace for Ukraine !
 ウクライナに平和を!**



**Peace for Palestine !
 パレスチナに平和を!**



編集後記 ロシアのウクライナ侵攻も、ガザの恐ろしい住民の犠牲にも終わりが見えません。二つの戦争が止められない中で、オリンピックや万博なんてやっているとよいのでしょうか?そんな場合ではないのでしょうか? 沖縄の島々の軍事要塞化も止まらず、うるま市民から『ミサイル搬入阻止行動』のメッセージが届いた直後、中城湾港からミサイル部隊の軍用機材が陸揚げされたとの報道があり、強引に軍拡を進める政府の対応に怒りが湧きます。政府はどこまでやるのでしょうか?どう見ても、中国にミサイルで対峙するなどイソップ童話の世界では? しかしこの愚行は哀しいかな現実です。もっと自国民を大切にして、アメリカとこそ、対峙する知恵を持てないの?主権国家なんですか、日本って? (Y)